

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第4号 畜産

発行日 平成24年 6月28日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 二番草の刈り取りは、適期に、刈り取り高さが低くなりすぎないようにします。
- ◆ 除草剤の播種日同日処理による草地更新の準備を始めます。
- ◆ 嗜好性の良い粗飼料、夜間の粗飼料給与など、暑熱の影響の緩和に努めます。

1 草地管理

(1) 二番草の収穫など

ア 二番草の刈り取りは、一番草収穫後から 40～55 日が目安です。土壌及び牧草の水分が高く、気温の高いこの時期は、牧草が蒸れ上がり易いので、刈り遅れないようにします。

また、日射量も多いこの時期の極端な低刈りは、地温が上がりすぎ、根が高温障害を受ける恐れがあるので、刈り取り高さは 10～15cm とします。

イ 収穫後はできるだけ早く施肥し、三番草の生育を促します。施肥量の目安は、10a あたり窒素成分で 5kg、リン酸 2.5kg、加里 5kg です。尿散布を行う場合は、肥料焼けを防ぐため、曇天や降雨前後に散布します。

ウ エゾノギシギシは、根茎と長期間発芽能力を有する種子で繁殖するため、完全な防除の難しい雑草の一つです。除草には、選択性除草剤であるチフェンスルフロンメチル剤の茎葉散布が有効です。ギシギシの葉が展葉してから散布します。散布後 21 日間は採草及び放牧ができないこと、クローバーに薬害が出やすいなどに留意下さい。

(2) 草地更新の準備 (除草剤の播種日同日処理)

裸地や雑草が多い圃場では、草地更新の準備を行い、8 月下旬～9 月中旬を目安に永年性牧草の種子を播種します。シバムギなど難防除雑草の占有が多い圃場では、播種の 30 日前位に播種床を形成、雑草を生育させ、播種日に非選択性除草剤を散布する「除草剤の播種日同日処理」が効果的です。

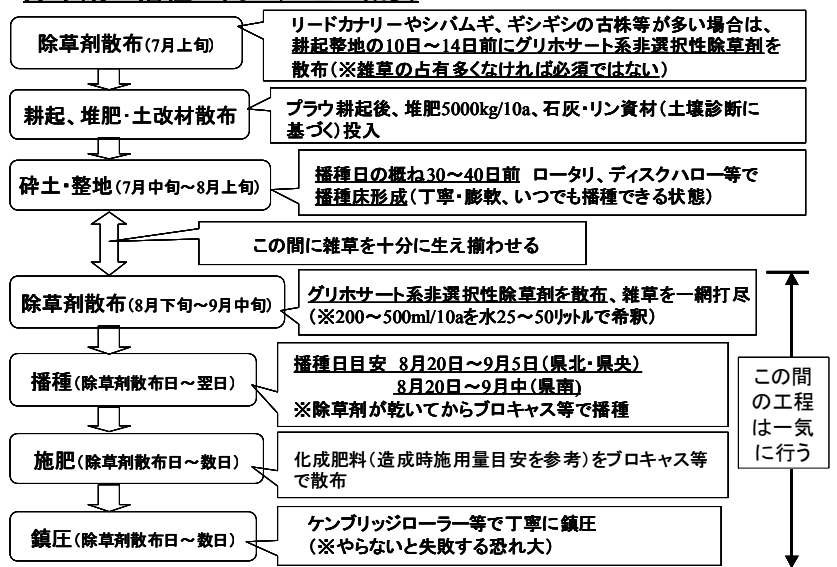
ア 更新の最後に鎮圧作業が必須です。ローラーの準備、ローラーが無い場合は、トラクタ等の車輪で鎮圧が必要です。

イ 雑草の占有が多い、既存植生の生育が旺盛な場合、6 月下旬から 7 月上旬に非選択性除草剤を散布します。

ウ 7 月中旬から 8 月上旬にかけて、耕起、堆肥 (10a あたり 5t を目安) と土壌改良材 (石灰、リン資材) の散布、砕土、整地作業を行います。土塊を十分に砕き、牧草の発芽・定着を安定させるため、播種床形成は、丁寧に行います。この後雑草を十分に生え揃わせます。

エ 播種床形成から 30 日程度経過した 8 月下旬～9 月中旬に、除草剤の播種日同日処理を行います。非選択性除草剤の散布、播種、施肥、鎮圧を期間を開けずに一気に行います。播種、施肥は、散布した除草剤が乾いたのを確認したら、できるだけ早く行います。

除草剤の播種日同日処理の概要



2 暑熱の影響の緩和（乳牛）

本格的な暑さに向け、飼料給与を点検しましょう。

- (1) 輻射熱や直射日光の遮断、換気・送風量の確保により、乳牛の体感温度を低下させます。
- (2) 新鮮な水を十分に飲水できるようにします。水槽の掃除はこまめに行います。
- (3) 嗜好性の良好な粗飼料の給与に努めます。適期収穫で、調製品質の良いものが望ましいです。嗜好性がやや劣る粗飼料の場合は、少量ずつ給与する、嗜好性の良い飼料（配合飼料やビートパルプを水で戻したものなど）を粗飼料に少量ふりかけるなど、採食意欲を高める工夫をします。
- (4) 外気温が低下する夜間から早朝にかけても粗飼料が採食できるよう給与量を増やす、就寝前のエサ押しなどを検討下さい。
- (5) 粗飼料の摂取量や乳量・乳成分が低下し始めたら、次ぎの対応を検討下さい。

ア 配合飼料の給与量の多い搾乳牛では、粗飼料の摂取量、反芻回数とだ液分泌量が減少するため、ルーメン pH低下によるアシドーシスが懸念されます。配合飼料の給与回数を増やす、重曹（100～200g/日・頭）の給与などを行います。

イ エネルギー補給のため、綿実の給与も有効です。ルーメン微生物の活性と乳脂肪分率の維持を考慮し、給与量は1頭あたり1日2kgが上限です。大豆油やパーム油を原料とするバイパス油脂の給与も有効ですが、リノール酸含量が多いものは、繁殖に有益であっても乳脂肪合成を阻害する場合がありますので、給与量は推奨量を参考とします。

ウ 発汗の増加により、カリウム、ナトリウム、マグネシウム、カルシウム、リンなどのミネラル要求量も通常の10から20%増加します。乾乳後期牛を除き、鉍塩を切らさないようにするとともに、重曹を補給し、リン酸カルシウムを増給します。

次号は7月26日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

**6月1日～8月31日は
農薬危害防止運動期間です**

- 近隣住民・周辺環境に配慮しましょう
- 農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう
- 農薬の保管・管理は適切にしましょう